

神戸市立上筒井小学校 学校評価報告書

校園長名

前田 謙二

記入者名 石塚 憲一

学校の目標	子供たちが自信をもって、安心して学ぶことができる学校 明るく活気のある温かい教師集団					
内容		重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育てたい子供の姿	人間性豊かな調和のとれた子					
	思いやりのある子	明るいいあいさつ気持ちの良い返事、やさしい言葉づかいを呼びかけていく。	3	あいさつは、粘り強い指導により少しずつ定着してきている。言葉遣いについては児童により納得感を得る指導の工夫が必要である。	・今年度コロナも5類になり、子供たちのために多くの行事をすることができるようになった。学校はコロナ前と同じ形にならないよう工夫しながら様々なことに取り組んでいる。	児童によるあいさつ運動を続ける。週目標の設定（あいさつ・言葉遣い）を増やす。異年齢交流を積極的に行い、思いやりのある言動を認め広げていく意識を全職員がもって取り組んでいく。
	自ら学ぶ子	話しの聞き方を意識させ、自分の考えをもたせると共に交流（表現）活動を大切にしていく。	3	職員研修の目標に設定し、どの授業においても聞く・話すを大切に交流（表現）活動を行ってきた結果、少しずつ自信が持てる児童も増えてきた。	・授業の様子を見ると落ち着いた環境雰囲気の中意欲的に学習に取り組んでいる。新しく導入された一人1台の端末も様々な場面で活用されていることがよく分かった。	今まで取り組んできたことを土台に、子供たちの表現力に焦点を当て、引き続き教科学習や普段の学校生活の中で言葉によるやり取りを意識的に増やしていきたい。
	たくましい子	自分で考え行動することを認め、豊かな学びにつなげていく姿勢を広めていく。	3	学年の発達段階に応じて「じぶん学習」を設定し実践してきた。主体的な学びが形として表れてきているので継続して取り組んでいきたい。	・世の中の様子が激変する中（便利なものが自由に使える）昔から大切にされてきたものが薄れていつている。そういったことが、子供の体力やものの考え方にマイナスに働かなければよいのだが。	「じぶん学習」をはじめとして、主体的に学習に取り組む子供たち、自らの考えでより良い行動をしていく子供たちが育ちつつある。今後も学校・保護者・地域が三位一体となって取組を継続していきたい。
全市的に推進すべきこと	①いじめ防止対策に関する取組み	生徒指導部会および職員会議で情報共有をすると共に、未然防止と有事には迅速な対応に努める。	3	今までは対処療法的な対応が中心であったが、あいさつ運動やいじめ未然防止プログラムの活用を引き続き行い、相手意識をもてる子供たちを育てていきたい。	重大事態のことが全国的にも新聞紙上やニュースなどでよくあがっている。決して他人事ではなくいつどここの学校でも起こり得ることである。日頃から注意深く児童の様子を見て、未然防止に努めてほしい。	研修を企画し教職員の人権意識を高める。日頃から「気づき力」を高める。組織的対応を心掛ける。人権発表の場をよい機会ととらえ、職員が一丸となって設定した取組を継続していく。
	②不登校支援の取組み	家庭背景や児童のもつ特性等、児童理解に努め、寄り添う姿勢・保護者との連携を大切に様々な方策を試みている。	3	今できる最大限のことはできている。引き続き、学校全体で情報共有を行いながら、不登校児童に関わっていききたい。	不登校児童が一定数いることは本協議会の学校においても例外ではない。神戸市も力を入れると聞いているので、今後の動向を注視したい。	次年度から始まる「サポートルーム」の運用をより効果的に行えるようハード面・ソフト面の準備を進め軌道に乗せていきたい。
	③教職員の業務改善	計画的に業務を進めると共に、業務内容等当たり前を見つめ直し、より効率のよい方法を工夫する。	2	まだ一人一人の意識が弱い。職員の業務改善によって、子供たちにより影響を与えられるという意識で、職員全員で取り組んでいきたい。	働き方改革など先生方の勤務も難しい面があると感じる。地域行事への参加（土日祝日は一般教諭は基本参加しない）についての申し入れは理解できる。	引き続き今までの当たり前を見つめなおし、計画的に業務を進めるとともに、より効率のよい方法を工夫する。職員一人一人がワークライフバランスを意識するよう声掛けを続けていく。
	④「すぐ-る」の活用、ホームページにおける情報発信	行事の実施時に学校だよりやホームページへの記事掲載を行う。すぐ-るを効果的に使う。	4	ホームページで必要な情報をほぼ毎日更新することができた。今後も状況や必要に応じて、すぐ-るを効果的に活用していききたい。	ホームページについては、こまめにアップされており、学校の様子がよりわかってよい。見ている人も相当数いると思われる。	学校ホームページや学校だよりで子供たちの普段の様子を発信していくことでより保護者との信頼関係が強まっていくと考える。また「すぐ-る」の効果的な使用方法をさらに探っていききたい。
	⑤学校生活のルールや決まり（校則など）について	校内の生徒指導部会や教育評価で児童も参画して学校内のきまりを見つめ直していく。	3	まだ子供たちもきまりを守る意識が薄いところがあるため、指導の仕方も含めきまりについて考えていきたい。	ルールきまりの押し付けでは子供の納得感が得られず、よい方向へは向かわない。自分たち事として捉える方が今は必要なのかもしれない。	学級活動や学級指導、委員会活動などを通じて、学校のきまりの見直しに子供たちを参画させる取組をさらに推し進める。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある